



宇治武田病院

京都府宇治市宇治里原36-126
TEL 0774-2525000

人工関節や骨切り術など

ライフスタイルに合わせた適切な治療を実施

宇治武田病院整形外科は、ほぼ全ての運動器疾患を対象に治療を行っている。特に関節外科（人工関節置換術や高位脛骨骨切り術）やスポーツ整形外科（膝前十字靭帯再建術）ではより精度の高い治療に取り組んでいる。



副院長／運動器疾患・スポーツ医学研究センター長
清水 長司

しみず・ちようじ／日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本体育協会公認スポーツドクター、京都府立医科大学客員講師。

12月実績・人工関節置換術179件・骨切り術27件。

宇治武田病院整形外科では、人工関節置換術に対して、今年8月から新型インプラント（人工膝関節構成部品）の導入を進めている。骨にしっかりとフィットするようデザインされ、1ミリ単位の豊富なサイズバリエーションが特徴だ。

「個々の骨形態に合わせやすくなったので、手術中に必要な靭帯パランスや骨切り量の調整も容易になり、手術時間も短縮され、術後感染のリスク軽減も期待できます」と清水副院長は話す。

一方、同院の特徴として、スポーツ整形外科があげられる。中高齢者の中でも、スポーツ愛好家など活動的な患者さんが受診されるため、まず行う保存療法では、トレー

ナーによる筋トレやストレッチの指導などもあるという。変形性膝関節症の外科的治療としては、この人工関節置換術が知られているが、同院では骨切り術も行っている（2013年1月〜



新型インプラント（人工膝関節構成部品）。1ミリ単位でサイズが豊富なため個々の骨形態に合わせやすくなった。

同院では60歳以下の患者さんに対しては手術を行うことがあるという。

「40〜50歳代で膝の変形が強く、長年保存療法（関節内注射や、痛み止めの服用、さらにリハビリなど）を行っても、症状がよくならない患者さんが時々来院されます。このような患者さんの中には、早く手術を受けて存分に働きたいとか、好きな旅行を楽しみたいという方が多くいらっしゃいますので、手術を行うことがあります。もちろんその際、術後の生活指導、将来予想される再置換術の必要性などを患者さんに十分に説明し、納得してもらったうえで治療を行います」

院内には500平方メートルという広々とした、眺めのよいリハビリテーションフロアがあるほか、麻酔科との連携もよく、多剤カクテル療法による術後疼痛コントロールや術後に下肢の神経痛が出現した場合などは、同院の痛みの治療に特化した外来で痛みをとったうえでリハビリが行える点も安心だ。手術後の環境が充実していることも同院の特徴といえるだろう。

武田病院グループ初の足の治療に特化した外来を開設

武田病院



医療法人財団康生会
武田病院は高度できめ細かい医療を提供するため、17の診療科、9つの医療センターと症状に応じて専門的に治療を行う外来を複数設置している。整形外科では、2014年7月に足の治療に特化した外来を新規開設した。この外来では、運動中に起きやすい足底腱膜炎に対する体外衝撃波治療を実施している。かかとの腱に発生した炎症に超音波を照射。これを鎮静化して痛みも緩和する治療法である。同院の整形外科では骨粗鬆症から脊椎脊髄疾患まで幅広く対

応しており、特に患者が多い椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症に対しては、内科的な保存的治療または外科手術を症状に合わせて適切に選択。頸椎症など首の治療には手術用顕微鏡を使用し、細心の注意を払って慎重に対処している。

1年365日の継続的なりハビリを実施

医療法人財団医道会

十条武田リハビリテーション病院

十条武田リハビリテーション病院は、脳梗塞などの治療後に集中的なりハビリテーションを実施。患者ができるだけ早期に社会復帰できるよう支援している。3人の日本リハビリテーション医学会認定リハビリテーション

スタッフを擁しているのが特長だ。看護師とも連携し、365日休みなしの継続的なりハビリを展開している。



門医を中心に、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士など60人を超える充実した

リハビリテーションセンターを設置。中でもリウマチセンターには4人の日本リウマチ学会認定リウマチ専門医が在籍しており、抗リウマチ剤や生物学的製剤を用いるなど先進的な治療に取り組んでいる。また、リウマチ装具診、リウマチによる機能障害の進行を防ぐためのリハビリに力を入れていることも特長だ。